

2012年1月1日

今こそ、その日

キャミ・アレギザンダー

## 導入

あけましておめでとうございます。少し時間を取って、神のすばらしさを振り返るのは良いことです。私は「キリストを知る」というテーマを持って、去年をスタートしました。去年の一年間を振り返ると、神がご自身を今までよりもっと見せてくださったことがわかります。そして、キリストの心を知る機会を与えてくださったこともわかります。同時に、まだまだわかっていないということもわかってきました。私たちは皆、発展途上の者です。ですから、私は落胆したりしません。フィリピ 1:6 にある神の約束を信頼します。

**「あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。」**

神は、イエスが再び来られる日まで、私たちの中の業を成しつづけてくださいます。神が私たちの人生に働いてくださり、私たちをきよめ、聖なる新しいものとしてくださり、成長させてくださるのです。しかし、私たちにも役割があります。もし、去年一年間を振り返って、信仰の成長が見られないとしたら、それは重大なことを物語っています。私たちが植物なら、神は光や水、そして養分であり、私たちの信仰生活と信仰の成長に欠かせない存在です。私たちは成長を遂げているでしょうか。

ヘブル5:12-6:3にはこうあります。

**「5:12 実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。5:13 乳を飲んでいる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。5:14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。6:1 -2だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び直すようなことはせず、キリストの教えの初歩を離れて、成熟を目指して進みましょう。6:3 神がお許しになるなら、そうすることにしましょう。」**

これは、ここ OIC にあって私たち皆が受けるべきチャレンジだと思います。すなわち、このからだなる教会が、成長し成熟しつづける信徒の集まりとなることです。

乳児は消化器官が発達していないので、固形物を消化することができません。それで、母乳やミルクで栄養を取る必要があります。しかし、乳児が成長してくると、離乳食を与え始めます。また、そうする必要があります。それは、完全にミルクを飲まなくなるということでしょうか。そうではありません。私をご存知の方なら、私が牛乳が大好きなことも知っているでしょう。「私は牛乳が大好きです」と中国語で何と言うか、大学時代、ルームメイトに尋ねたことがあるほどです。牛乳の素朴な味が好きなのです。けれども、牛乳だけ飲んでいれば必要な栄養が取れるわけではないこともちゃんとわかっています。

私たちの霊性においても同じことが言えます。もちろん、私たちはミルクが必要です。信仰が成長するにつれ、神のみことばの真理をさらに深く掘り下げる必要があります。それは、信仰において、はいはいするのではなく歩むことを学ぶことです。では、今日は神のみことばを深く掘り下げて見てみましょう。

#### コリント第二 6:1-10

「6:1 わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。 6:2 なぜなら、／「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言うからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。 6:3 わたしたちはこの奉仕の務めが非難されないように、どんな事にも人に罪の機会を与えず、 6:4 あらゆる場合に神に仕える者としてその実を示しています。大いなる忍耐をもって、苦難、欠乏、行き詰まり、 6:5 鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓においても、 6:6 純真、知識、寛容、親切、聖霊、偽りのない愛、 6:7 真理の言葉、神の力によってそうしています。左右の手に義の武器を持ち、 6:8 栄誉を受けるときも、辱めを受けるときも、悪評を浴びるときも、好評を博するときにもそうしているのです。わたしたちは人を欺いているようでいて、誠実であり、 6:9 人に知られていないようでいて、よく知られ、死にかかっているようで、このように生きており、罰せられているようで、殺されてはおらず、 6:10 悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのように、多くの人を富ませ、無一物のように、すべてのものを所有しています。」

今日のみことばになぜこの個所を選んだか不思議に思っておられますか。一番よくある新年の抱負が何かおわかりの方いらっしゃいますか。

一番よくある新年の抱負は、ダイエットだそうです。数週間前、キャンディーを一袋ぜんぶ平らげる寸前に、包み紙にことわざのようなものが書いてあるのに気づきました。そのひとつに、「いつも前向き、明日からダイエット」と書いてありました。とりあえず今日は食べただけ食べて、明日からダイエットを始めればよいということでしょうか。

多くの方は新年の抱負や目標を掲げます。計画を立てるのは悪いことではありません。聖霊の導きにそった計画なら、すばらしいと思います。けれども問題なのは、99%の人が、実際に日常生活を変えなければならないと気づいた時点で、せっかくの抱負を投げ出してしまうことです。ミスタードーナツの前を通ると、「ダイエットは明日から始めよう。まだ今年には364日もあるのだし」と思うのです。そして、2月になればバレンタインのチョコレート、3月になればホワイトデーがやってきます。イースターのチョコレートもあるでしょう。そして夏が来て、水着になりたくないと思うわけです。

私は自分も含め皆さんに、今年真剣に取り組む信仰の目標を立ててほしいと思っています。キリストのからだとして、ともに成長し、成熟しましょう。本気でやるには、自制が必要になってくるでしょう。私は今、皆さんに話しながら、自分にも言い聞かせているのです。「今日は好きなことをして、すべきこと、正しいことは明日からでいいや」と言うてはいられません。

ヤコブ 4:13-15 はこう言っています。

**「4:13 よく聞きなさい。「今日か明日、これこれの町へ行って一年間滞在し、商売をして金もうけをしよう」と言う人たち、4:14 あなたがたには自分の命がどうなるか、明日のことは分からないのです。あなたがたは、わずかの間現れて、やがて消えて行く霧にすぎません。4:15 むしろ、あなたがたは、「主の御心であれば、生き永らえて、あのことやこのことをしよう」と言うべきです。」**

私たちには明日の保証はないのです。神が私たちにどれほどの時を与えてくださっているか知る人はいません。交通事故や地震で死ぬこともあります。ダン牧師は新年のメッセージを語る予定でしたが、その予定は大幅に変更となりました。信仰の成長を先延ばしにしていると、明日はないかもしれないと考えるのは怖いのではないのでしょうか。しかし、自分の人生を日々神の御許にささげ、神の臨在に浸り、神の御声を聞こうと耳を澄ますなら、明日何が起ころうと恐れる必要はありません。

パウロはコリントの教会にあてた手紙の中で、神のしもべとして見舞われた試練や困難を少し語っています。そして、この教会の人々に、神の恵みを無駄にしないようにと頼んでいます。コリントの教会の人々は、物事を先延ばしにする傾向がありました。良いことをする意志はあるのですが、腰が重いのです。彼らはパウロの働きをサポートするつもりでした。しかし、実行に至りませんでした。パウロは彼らにこのように促しています。**「今や、恵みの時、今こそ、救いの日。」**

皆さんが何か良いことをしたいなら、神に仕えたいなら、または働きを支援したいなら、今すぐ始めましょう。

明日まで延ばさないでください。将来の計画や希望を持つことはできますが、明日はどうか分からないのです。今日という日が、神が私たちに与えてくださった日なのです。それは、私たちが成長し、学び、主に仕えるために与えられたのです。

教会として皆さんとともに受けたたいチャレンジは、このことです。私たちが成長し、成熟し、パウロがこの6章で挙げた性質を発揮することです。この聖書箇所を、新年の抱負として書き換えてみました。ともにお読みしましょう。

ここ OIC でともに神に仕える同労者として

**純真、知識、寛容、親切、聖霊、偽りのない愛、真理の言葉、神の力を示しましょう。そして、苦難、欠乏、行き詰まり、6:5 鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓において大いなる忍耐を示しましょう。**

ここは神の力が現される所であり、人々はみんな純真で、理解があり、寛容で、親切で、聖霊に満たされていて、偽りのない愛があり、真実な人たちだったと、初めて OIC に来られる方々が口をそろえて言ったらどうでしょう。これらはすべて素晴らしいことです。そして、私たちの内に神が働いておられるしるしです。残念なことに、今の段階では、私たちの教会はこのような評判を得られないでしょう。現状はどちらかというと、コリント第二ではなく、テモテ第二のようだと思います。

テモテ第二 3:1-7

**「3:1 しかし、終わりの時には困難な時期が来ることを悟りなさい。3:2 そのとき、人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き、高慢になり、神をあざけり、両親に従わず、恩を知らず、神を畏れなくな**

ります。3:3 また、情けを知らず、和解せず、中傷し、節度がなく、残忍になり、善を好まず、3:4 人を裏切り、軽率になり、思い上がり、神よりも快樂を愛し、3:5 信心を装いながら、その実、信心の力を否定するようになります。こういう人々を避けなさい。3:6 彼らの中には、他人の家に入り込み、愚かな女どもをたぶらかしている者がいるのです。彼女たちは罪に満ち、さまざまの情欲に駆り立てられており、3:7 いつも学んでいながら、決して真理の認識に達することができません。」

最後の一節がたいへん気になりました。「いつも学んでいながら、決して真理の認識に達することができません。」それは、一番なりたくないタイプの教会です。でも、あまりにもたいへんそうだと思いますか。しんどいそうです。私たちにはこれはできないことです。しかし、覚えていてください。神ご自身が、始めた業を成し遂げてくださると約束してくださったのです。

さじを投げてあきらめてしまってもよい時はあるでしょうか。ありません。神にはすべてのことが可能だからです。パウロの言葉をもう一度読みましょう。

**「6:8 栄誉を受けるときも、辱めを受けるときも、悪評を浴びるときも、好評を博するときにもそうしているのです。わたしたちは人を欺いているようでいて、誠実であり、6:9 人に知られていないようでいて、よく知られ、死にかかっているようで、このように生きており、罰せられているようで、殺されてはおらず、6:10 悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのように、多くの人を富ませ、無一物のように、すべてのものを所有しています。」**

最後の部分は、何よりも私たちに励ましてくれます。無一物のように、すべてのものを所有しています。

そして、去年のテーマであったフィリピ 3:7-8 に続き、さらに積み上げて行きたいと思います。

**「3:7 しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。3:8 そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、」**

ヤコブ 1:2-4 はこう言います。

**「1:2 わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。1:3 信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。1:4 あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。」**

これが、2012年の年明けに皆さんへお渡しするチャレンジです。私たちが完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になりますように。純真、理解、寛容、親切、真理の言葉、偽りのない愛を聖霊と神の力によって示すことができますように。今日が始めるべき日だと気づきますように。アーメンでしょうか。明日まで先延ばしにしないでください。イエスをまだ信じていないけれど、もっと知りたいと思っている人も、どうかそれを先延ばしにしないでください。イエスが真理であるなら、信じるのを先延ばしにしている場合ではありません。

今が救いの日です。祈りましょう。